

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。

ここに第83期（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申しあげます。

当期における当社グループを取り巻く事業環境は、大変厳しい状況で推移しました。

東日本大震災の発生に伴い、当期前半はアルカリ乾電池の増産に全力で取り組みましたが、昨年7月を境に市場では乾電池がダブつき状況となりました。これは海外からの輸入品が一挙に市場に流れ込んだもので、この状況は今もなお完全には解消されておりません。

10月以降に発生しましたタイの洪水問題では、一部部品の入手困難による生産、供給の遅れおよび製品納入先様の被災による納入見合わせという両面でのサプライチェーン問題に直面し、影響を受けました。また、世界的なテレビ需要の低迷、原材料価格の高騰、超円高、欧州経済の低迷も当社の経営を圧迫しました。

このような厳しい環境のもと、当期売上は大きく減少しましたが、各事業部門の徹底的なムダの排除によるコスト削減と棚卸資産の圧縮による経営合理化に努め、営業利益、当期純利益は黒字を確保することができました。

配当につきましては未だ事業の再建半ばで欠損金を抱えていることもあり誠に遺憾ではありますが、見送らせていただきたいと思います。株主の皆様には誠に申し訳なく、心よりお詫び申しあげます。

次に平成24年度の展望について申しあげます。

電池事業は、本年4月に発売いたしました富士通アルカリ乾電池史上最高性能を誇る新アルカリ乾電

池「PremiumG」、くり返し使えて低自己放電性能に優れる「富士通 充電電池」、更には、スマートフォンの急速充電に適した「富士通 スマホ乾電池」などの新製品の拡販に力を入れてまいります。また、素材から電池、部品など当社グループが保有するあらゆる技術を最大限活用し、圧倒的に安全で安心してお使いいただける新蓄電システムをご提供してまいります。更に昨年10月にスタートしました旭化成FDKエナジーデバイス株式会社の事業運営を軌道に乗せ、リチウムイオンキャパシタの製品開発力と供給力の一層の強化を進めてまいります。

電子事業は、4月に社内体制を一新し効率化を進めております。山陽工場にてフェライト新工場を立ち上げ、ハイブリッド車や電気自動車、太陽光発電関連機器向けの超高性能なフェライトの生産を本年度開始します。

以上のように当社グループを取り巻く環境変化に柔軟に対応し、新たなる発展の道を切り拓いてまいりる所存でございますので株主の皆様におかれましては何卒倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年6月



代表取締役社長

望月通正